



女性のための
投資フォーラム2019



8031

三井物産



目指す在り姿は「Driving Value Creation」

会社概要とビジネスモデル

● 数字で見る三井物産

- 1947年設立、連結従業員数43,993名
- 世界66カ国・地域、事業所数138拠点
- 連結決算対象関係会社491社
- 2019年3月期業績：
収益7.0兆円、当期利益4,142億円、総資産11.9兆円、
株主資本4.3兆円、基礎営業キャッシュ・フロー5,705億円

● 事業分野、セグメント

- 資源分野セグメント： エネルギー、金属資源
- 社会インフラ分野セグメント： 機械・インフラ
- 素材分野セグメント： 化学品、鉄鋼製品
- 他分野セグメント： 生活産業、次世代・機能推進

● ビジネスモデル

- トレーディングと事業経営の両輪で成長
祖業であるトレーディングで培ったネットワークを活かし
事業投資へ展開、投資先の事業経営に携わり、
その事業がトレーディングとネットワークを拡大

成長戦略 (2/2)

- ニュートリション・アグリカルチャー：食料の増産や高付加価値ニーズへの対応
- リテール・サービス：消費者ニーズに対応する、デジタル/ロジスティクス/金融機能を駆使した、次世代型事業育成
- 2020年3月期「環境と健康」
- 環境：LNG案件の推進、再エネ・次世代電力の取り組み、車体軽量化、電動化、リサイクル事業
- 健康：アジア病院・周辺事業、個別化未病対策事業、シニアリビング事業
- プロ人材
- 最大の資産は人材。地域、事業領域、商品に精通した「その道のプロ」が多種多様に存在し、ビジネスを創造し、育て、新たな価値を生み出す
- 連結従業員43,993名に占める海外プロ人材26,887名
- 全体に占める女性14,818名、うち、管理職1,145名

中期経営計画、成長戦略 (1/2)

● 中期経営計画

- 2020年3月期に史上最高益更新へ
- 当期利益4500億円、基礎営業キャッシュ・フロー6400億円、ROE10%以上を目指す

● 重点施策1:

強固な収益基盤づくりと既存事業の徹底強化

- 中核分野：金属資源・エネルギー、機械・インフラ、化学品
- 当期利益・基礎営業キャッシュ・フローは全体の約85%
- 強みの上に資産を積み増すポルトオン投資を継続

● 重点施策2: 新たな成長分野の確立(成長分野を特定、経営資源を配分、次の収益柱を確立)

- モビリティ：自動車素材の軽量化や高強度化
貨物輸送や旅客鉄道における複合的サービスの提供
- ヘルスケア：病院群や医療機器メーカーを核としたヘルスケアエコシステムの構築

1Q実績、マテリアリティ、株主還元

● 2020年3月期第一四半期実績

- 金属資源・エネルギー堅調、非資源分野も機械・インフラを中心に概ね計画通り
- ベトナム海老生産加工事業会社への出資参画、中国向けヘルスケアファンド設立に合意

● マテリアリティ(重要な経営課題)

- ESG(環境・社会・ガバナンス)や国連「持続可能な開発目標(SDGs)」等、サステナビリティの重要性は高まっており、変化するメガトレンドを踏まえて新たなマテリアリティを2019年4月に特定

● 株主還元方針

- 2020年3月期予想配当金：一株当たり80円
- 基礎営業キャッシュ・フローの積み上がりを見ながら、追加還元を検討
- 業績向上を通じた配当金額の継続的増加と、2020年3月期ROE10%達成のための施策を継続